

地球通信

KOKUSAI KOTOKU GAKUIN
学校法人 国際ことば学院

学校法人 国際ことば学院 法人本部事務局
〒422-8076 静岡市駿河区八幡3-2-12
TEL:054-286-0788 FAX:054-260-7836
<http://www.kotoba.ac.jp>



梅雨の晴れ間からご挨拶

学校法人 国際ことば学院
理事長 袴田靖子

支援者の皆様、卒業生の皆様、国際ことば学院を見守ってくださっているすべての皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。今は普通に元気であることがとても特別のことにありがたく思われます。

今年一月末に新年号として発行して以来、久しぶりの地球通信です。ウィズコロナの生活が続く中、国際ことば学院各校ともオンライン授業などを中心に教育活動を行いつつ、一步步対面授業を増やし通常活動に近づくよう工夫している最中です。雲一つない晴天の心境にはまだなれませんが、何はともあれ、教職員、学生共々みんな元気でいてくれることに感謝し、ここにご報告させていただきます。

前年度末コロナウィルスの影響をもろに受け始め、各校とも卒業式を縮小したり入学式を中止したり・・・世間でも毎年恒例の静岡まつりや安倍川花火、さらには日本留学試験もJLPTも中止になりました。日本語学校静岡校、富士山校、大和校では、今年度四月生のうち入国できた学生は法人全体で60数名ほど、残り半数はまだ母国に足止め状態になっています。

今回の最も大きな衝撃は、まさに私たちの活動を支える頼みの綱であり、何の疑いもなく妄信してきたグローバリゼーションからのしっぺ返しを受けたことです。グローバリゼーションがコロナウィルスを世界中に、しかもあっという間に拡散させてしまいました。人、物、金、そして情報に伴って、ウィルスも世界を行ったり来たりすることを思い知らされました。そして、目に見えない極小の細菌が世界のあらゆる動きを完全にマヒさせてしまう現実を前に、私たちは人間の無力さや現代文明の弱点を突き付けられ立ち尽くすしかありませんでした。

それにしても、学生のいない学校のなんと虚しいことか・・・。学校には学生がいて、そこに初めて教師の仕事が存在することを今回ほど思い知らされたことはありません。業種によってはリモートワークで何の支障もないところもあるでしょうが、学校や教育は技術や知識を伝えることだけが目的ではないことがよくわかりました。技術や知識を伝えながら、しかも学生と教師との細かいやりとりが介在しなければならぬし、何よりそこに人との直接的な関りによる学びや気づきがあり、感性や人間性が磨かれる場面があるべきなのです。オンライン授業に不慣れなところもありますが、それを差し引いても、顔を見て一緒に笑い、一緒に感動することこそが教育なのだ、つくづく思います。学校にやってくる学生たちの顔を見ることがどんなに幸せなことか・・・それが、教師の喜びであり生きがいなのだ、教育の原点を見る思いがしています。うれしいのは、強いられた不自由な生活の中、学ぶことの楽しさや友人たちや先生たちと関わることの意義を再確認し、前のように毎日学校に来ることを待ち望んでくれていることです。

教育への思いを仕切り直せたのは、コロナからの思いがけない恩恵だと言えるかもしれません。ポストコロナの世の中がどうなっていくのか見極めきれませんが、教育への情熱と感動を改めて抱くことができ、そしてこれからの教育の新たな在り方や挑戦の可能性に希望の光を見ている私たちです。「フレキシビリティで危機をチャンスに」、「沈着冷静さと良識をもって」、そして「やれるように自然体でやる」をモットーに、時には足踏みしたり、速度を速めたり緩めたりして、生き残っていきます。窓を開ければ梅雨空にも晴れ間が・・・明日への期待がふくらみます。



引き続き感染症対策を行ってまいります。

留学生の出身国は今…

新型コロナウイルスが日本はもちろん世界中で猛威をふるっています。国際ことば学院には、世界各国から学生が集まり、勉強をしています。彼らの出身国もまた様々な影響を受けています。そこで、国際ことば学院外国語専門学校を卒業し、母国へ戻った、ダスラジブさん(インド)、陳佳宜さん(台湾)に、母国の現在の様子を聞いてみました。(※こちらの記事は5月末日時点に執筆したものです。)

インドの様子



1週間に1回か2回くらい市役所がお店や道を洗浄してくれます。



買い物をするとき並んで買い物をします。



普段の駅の様子。人がたくさんいます。



現在の駅の様子。人が少ないです。

インドでは毎日コロナにかかっている人は約6500人くらいです。今、皆は

外に出かけるとき必ずマスクをしたり、家に戻ったら手をきちんと洗うことをしています。インドの外出時間は朝7時から夜7時までです。夜7時から朝7時までには外に出ることは禁止となっています。また、買い物時間や店の開店時間は朝10時から夜6時までとなっています。電車や飛行機はまだ禁止ですがバスでは20人しか乗れないとかタクシーでは1人か2人しか乗れないことになっています。また、小さい店では1mぐらいの間隔をあけて並んでお客様が立っています。大きい店だったら1回2人ずつしか店に入れなくなっています。6月からは少しずつ大きいスーパーマーケットとか会社などが始まります。(ダスラジブ)

何とかこのような生活ができている台湾

世界中に蔓延している新型コロナウイルスに対して、政府は厳格な態度で、毎日情報を公開、説明し、衛生指導を行っています。各メディアや民間のコミュニティソフトウェア会社と提携し、各方面への関連措置をとっています。怖がっている台湾国民は、医療従事者達と一緒に新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、また社会へのリスクを下げるために、頑張っています。

新型コロナウイルスがだんだんおさまっていくに従って、政府も「防疫新生活運動」を強く提唱し始めました。国民は政府の方針に従って、防疫の次の段階に入ります。これから一年か一年半の間、国民は通常とは違う生活を続けなければいけないと言われています。そして、国民は“自己保護意識”も高くなってきて、個人の衛生管理だけでなく、公共の場での衛生管理に対してもその意識ははっきり変わりました。



最近オンラインフォーラムに昔の生活スタイルとは違う新生活スタイル



になったという話題が出て炎上しているそうです。例えば、普段ほとんどの国民は手をよく洗う習慣がなかったのですが、新型コロナウイルスのため、手を洗う頻度が高くなりました。そして、ただの水で洗うのではなく、ハンドソープを使わないと完全に綺麗にならないと言われています。

一方、マスクをつけているので、女性の化粧の頻度も少なくなったという話題もあるそうです。公共の場で、特にボタンが付いているエレベーターやドアの開

け閉めやATMでの現金の引き出しなどは、感染する恐れがあるので、手を直接触れずに操作するようになっています。宴会の時には取り分け用の箸、スプーンが使われるようになりました。接触率を下げるため、交通機関の使用率にも影響が出ていますが、かえって郊外活動も人気になったそうです。

いつ終わるか分からない伝染病により、人と人の関係や生活習慣などが変わっています。私たちは台湾人として、台湾政府、医療機関、研究機構と国民とが一緒に協力して、他の国よりはまだ日常の生活ができているので、これは本当に幸いなことです。(陳佳宜)



「末續先生との思い出」文集が完成しました！

末續先生との思い出を51名が書きました文集ができました。

末續先生の大学時代のご学友、学生運動のお話や、ことば学院が豚小屋から出発した頃のお話、地域の方々が語る末續先生のお話のっています。興味深いのはことば学院の幕開け時代に、多くの支援者さまが奉仕のお心で支えて下さった貴重なお話です。文集にまとめられて幸いですし、ことば学院を継承される後世の方々のお役に立てればと思っております。

末續先生を引き継がれた袴田先生が末續先生をどんな風に受け止めていたのか、ものっています。さらに、採用面接の時の面白いエピソードなどもあります。野田先生の深い人間観からの末續先生、近藤先生とのやりとりは、ほろっと涙がこぼれます。ご伴侶の畠山さんのお気持ちや、専門学校の外の方々とのつながりも掲載されています。教職員のみならず51名の方がお書きになった「末續先生との思い出」を手にとって下されば幸いです。



本学理事の菅ヶ谷純弘先生が、「末續先生との思い出」文集発行に寄せて、2枚の大作（肖像画）をご寄付くださいました。

「末續先生との思い出」の表紙にある2枚の写真をもとに、絵画を描いて下さいました。

1枚は表紙のお写真で、外向きの表情の中にある末續先生の人間観や人生観まで描かれています。もう1枚は裏表紙にあるお写真で退官時のものです。末續先生の楽しげで快活な面が描かれております。2つの側面を合わせもって末續先生の広がりが見渡せるようです。絵の実物は「Multilingual末續Library（図書室）」に飾る予定です。

菅ヶ谷先生、誠に有り難うございました。（高木）

文集は郵送にて配布可能です。ご希望の方は、
①お名前②ご住所③ご連絡先④ご希望部数
を下記までご連絡ください。

国際ことば学院外国語専門学校内
「末續先生との思い出」係

Tel: 054-270-7091 Fax: 054-286-7091

〒422-8062

静岡県静岡市駿河区稲川3-9-4



「末續氏像」



「笑顔の末續先生」

「静岡ビジネスレポート」に掲載されました！

本校の記事が、株式会社静岡ビジネス社発行の「静岡ビジネスレポート」に掲載されました。

1月20日号、2月20日号、3月20日号の3号にわたり、「多様化する地域社会 異文化理解と語学教育」と題した特集が組まれています。在校生や卒業生の活躍、本学の教育方針、多様化していく社会の中での本学の役割などについてまとめられています。



学校法人 国際ことば学院 お知らせ

Multilingual末續Library便り③

2年目を迎えたMultilingual末續Library。コロナ禍の中で、活動を自粛してのスタートとなりました。昨年度のようなイベントや活動は、未だ難しい状況にありますが、今できることを模索しつつ、図書の修理や整理をしています。

図書室も初夏の装いに模様替え、会員限定での図書の貸し出しもようやく再開しました。自粛時間を利用して、外国語の本に親しむ時間を増やしてもらえたらと思います。微量ながらも、各言語とも多読向きの書籍が増えました。

「人は言葉に励まされ、言葉で成長する」(橋本武)。不透明な時代だからこそ、励まされる言葉と出会える、そんな図書室でありたいと願っています。文責 西貝理恵子



<ご寄贈ありがとうございました>

石川実根子様：『母の足音』-英・西・中翻訳付-

鈴木淑乃様：“Harry Potter series”, “The KIMONO”, “The English Patient” “The Da Vinci Code” “Sherlock Holmes I / II” “Norwegian wood” etc.洋書多数。

<編集後記>

今年度より再び編集長となりました。今回、新型コロナウイルスの影響もあり、地球通信を休刊とすることも考えたのですが、このような機会だからこそ伝えられることもあるのではないかと思います、発行することといたしました。これからも逆境に負けず学校の様子を発信していけたらと思います。

編集長：甲斐/ 編集：梅島、山田、工藤、佐藤

次回、地球通信 第265号は

2020年8月下旬ごろに

発行予定です。お楽しみに！

KOKUSAI KOTOKU GAKUIN GROUP 学校法人 国際ことば学院グループ

- | | |
|--|---|
|  <p>COLLEGE OF FOREIGN LANGUAGES
国際ことば学院外国語専門学校</p> | <p>〒422-8062 静岡県静岡市駿河区稲川3-9-4 TEL:054-270-7091 / FAX:054-286-7091
WEBSITE: http://sp.kotoba.ac.jp E-MAIL: ask@kotoba.ac.jp</p> |
|  <p>JAPANESE LANGUAGE SCHOOL
国際ことば学院日本語学校</p> | <p>〒422-8076 静岡県静岡市駿河区八幡3-2-28 TEL:054-284-8383 / FAX:054-284-8338
WEBSITE: http://jp.kotoba.ac.jp E-MAIL: info@kotoba.ac.jp</p> |
|  <p>MT.FUJI JAPANESE LANGUAGE SCHOOL
富士山日本語学校</p> | <p>〒416-0944 静岡県富士市横割1-6-16 TEL:0545-30-8680 / FAX:0545-30-9558
WEBSITE: http://fujisan.kotoba.ac.jp E-MAIL: fujisan@kotoba.ac.jp</p> |
|  <p>YAMATO MAHOROKA JAPANESE LANGUAGE SCHOOL
大和まほろば日本語学校</p> | <p>〒633-0053 奈良県桜井市谷10-1 TEL:0744-44-2424 / FAX:0744-47-2430
WEBSITE: http://yamato.kotoba.ac.jp E-MAIL: yamato@kotoba.ac.jp</p> |